

## 第3学年 道徳学習指導案

日時 平成17年10月28日(金)

11:30~12:20

授業会場 盛岡市立厨川中学校 3年5組教室

対象 盛岡市立厨川中学校

3年5組(男18名、女19名、計37名)

指導者 盛岡市立厨川中学校

教諭 佐々木 広一

1 主題名 「限りある命」 (3-(2))

2 資料名 講師講話「命を見つめて」(講師 道下俊一さん)

3 主題設定の理由

(1) 価値について

内容項目3-(2)は、「生命の尊さを理解し、かけがいのない自他の生命を尊重する」である。生命は、かけがいのない大切なものであって、決して軽々しく扱われてはならない。生命を尊ぶことは、かけがいのない生命をいとおしみ、自らもまた多くの生命によって生かされていることにこたえようとする心の現れといえる。

近年、生徒の生活様式も変化し、自然や人間とのかかわりの希薄さから生命あるものとの接触が少なくなり、生命の尊さについて考える機会を失っている。

中学生の時期には、健康に過ごせるためか自己の生命に対するありがたみを感じている生徒は決して多いとは言えない。身近な人の死に接したり、人間の生命の有限さやかけがいのなさに心を揺り動かされたりする経験をもつことも少なくなっている。そのためか、生命軽視の軽はずみな行動につながり、社会的な問題となることもある。

そこで、指導にあたっては、生命あるものは互いに支えあって生きているし、生かされていることに感謝の念を持たせるとともに、自らの命の大切さを深く自覚させ、他の生命を尊重する態度を身に付けさせたい。

(2) 生徒について

学級の雰囲気は明るく男女間の仲が良い。男子には幼さが残っている生徒が多いが、女子は明るさと、しっかりとした考えを兼ね備えた生徒が多い。

道徳の時間において命に関する題材を扱ったときは、命の大切さを表現できるが、自分のこととして捉えるようになるまでには至っていない。

学校生活を見ていると、自己価値が得られる取り組みに対しては、助け合い、協力し合って取り組むが、人のために何かしようとする点に希薄さを感じられる。また、道徳性検査「HUMAN」の結果を見ると、項目3「主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」の生命の尊重の項目において、全国平均と同等な数値を示している。

本学級の生徒たちにとって、自らの命の大切さを深く自覚させ、他の生命を尊重する態度を身に付けることは、今後の自分の人生をより豊かなものにしていくうえで大切なことであると考ええる。

(3) 資料について

講師として話をしてくださる道下俊一さんは、北海道で僻地医療に長年携わってきた方で東京書籍2年「明日をひらく」の資料の「われここに生きる」の主人公である。当時は十分な医療施設が整っていない中で、地域の人々と密接にかかわり医療活動を行ってきた。地域に奉仕する姿は、2年生の時に資料を通して考えている。今回は道下さん御自身が医師として地域の人々との関わり合いの中から、互いに支えあって生きることの大切さや、自らが生死の狭間をさまよう中で、感じとった命の大切さ、についてお話をさせていただく。

道下俊一さんが医師として、また、人として患者と接し医療に取り組む中で、命の大切さを感じ、また、周りの人に支えられてこそ自分があるということをお話していただくことは、本学級の生徒にとって大変意義のあることであると考えられる。

4 本時の展開

- (1) ねらい かけがえない生命をいとおしみ、命ある限り生き抜こうとする気持ちを育てる。  
 (2) 展開

	学習内容	期待する生徒の心の動き	留意点
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 講師である道下俊一さんの生き方を振り返る。</li> <li>○ 講師を紹介する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・霧多布で地域医療のために頑張っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の授業の様子をビデオで紹介し、改めて道下俊一さんの経歴を紹介する。</li> </ul>
展開 35分	<p>1 チリ地震津波の時の様子を聞く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分がお産で取り上げた子が亡くなった時の話を聞いて、みなさんは何を感じましたか。</li> </ul> <p>2 道下俊一さんが、自分の病気を完治して霧多布に戻ったときの話を聞く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○道下俊一さんは村人の歓迎を受けて何を感じただろうか。</li> </ul> <p>3 道下俊一さんが命をどうとらえているかを聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○道下さんの命に対する考え方を聞いてどう思うか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分がやりたいこともできずに、命を亡くしてしまい、とてもかわいそうだ。</li> <li>・目の前で、人がなくなっていく姿を見るのはとてもつらい。</li> <li>・残された人たちも、つらく、悲しい思いをするのだと思った。</li> <li>・生きていて良かった。</li> <li>・みんなに会えて、生きることの大切さを実感した。</li> <li>・自分も常に目標をもって生きていきたい。</li> <li>・自分と自分以外の人の命をこれまで以上に大切にしていきたい。</li> <li>・生きていることを大切に思いこれから生活していきたい</li> <li>・命あるもの、すべて気にかけていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者がなくなっていく時の辛さを考えさせながら、命を失う辛さを共感的にとらえさせる。</li> <li>・道下さんが感じた、生きていることの喜びをとらえさせる。</li> <li>・一度しかない命を大切に生きて生き抜こうとする気持ちを持たせる。</li> </ul>
終末 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教師の感想発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しっかりとした目標をもち、それに向かって精一杯生きていこうと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これから自分は、どのように生きていきたいかを考える。</li> </ul>

5 評価 命を大切にし、命のある限り生きていこうとする思いを表現できたか。

6 資料構造図 (分析図)

場面	主人公の意識	学習者の意識	意識の焦点化	主な発問
<ul style="list-style-type: none"> <li>・チリ地震津波で、子どもを亡くしてしまう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぶつけようのない怒りと悲しみ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親しい人が亡くなっていくはとても辛い。</li> <li>・幼くして命を失いとてもかわいそうだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者がなくなっていく時の辛さを考えさせながら、命を失う辛さを共感的にとらえさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分がお産で取り上げた子が亡くなったときの話を聞いて、みなさんは何を感じましたか。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の病気が完治し村に帰ってきた時</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・霧多布の医者でよかった。</li> <li>・村の人々の自分に対する信頼を感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生きていてよかった。</li> <li>・医師として、頑張ってきたことは間違ではなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生きていることの喜び</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道下俊一さんは村人の歓迎を受けて何を感じたのだろうか</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師として、様々な生死を見つめてきて感じたこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・命の大切さ</li> <li>・生きていく中で、しっかりと自分の考えを持つこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これから、今まで以上に一日一日を大切に生きていこう。</li> <li>・もっと、命について考えていこう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一度しかない命を大切に生きていく気持ちは持たせる。</li> <li>・命の大切さ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道下俊一さんの命に対する考え方を聞いてどう思いますか。</li> </ul>

7 板書計画

命を見つめて

命というもの

自分自身が生死の境をさまよう

チリ地震津波の時

霧多布で医療  
四七年間

講師  
道下俊一さん

大事にしていきたい  
様々な命に目を向けていきたい  
自分自身を大切にしていきたい

村に戻ったとき、村民に歓迎される

お産で取り上げた子が亡くなる

札幌在住  
医療現場で活躍